

報告第 15 号

教育委員会事務の点検及び評価について

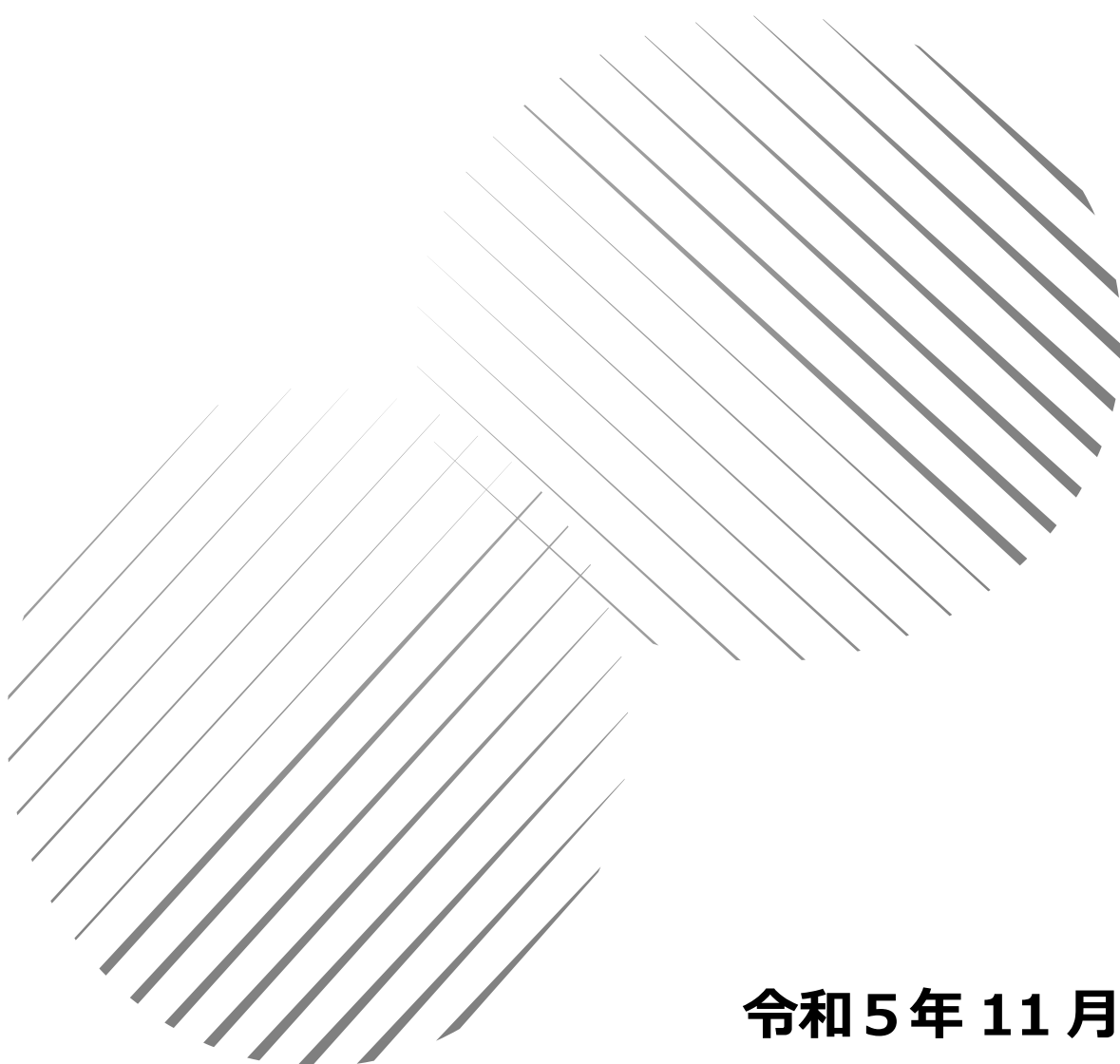
教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成したので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、報告する。

令和 5 年 12 月 6 日提出

柳井市教育委員会

教育長 西 元 良 治

**令和 5 年度
教育委員会点検・評価報告書
(対象：令和 4 年度事業分)**



**令和 5 年 11 月
柳井市教育委員会**

目 次

1 趣旨	… 5 頁
2 前回の学識経験者による主な知見と反映	… 5 頁
3 点検及び評価の実施	… 6 頁
4 点検及び評価	… 7 頁
(1) 事務事業の評価結果集計（全体）	
(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）	
(3) 具体的施策と個別評価票	
愛の1 ～ 愛の7	… 9～18 頁
夢の1 ～ 夢の6	… 19～26 頁
志の1 ～ 志の8	… 27～37 頁
4-(1) ～ 4-(5)	… 38～43 頁
(4) 令和4年度重点事項における個別評価	… 44 頁
《学校教育》	
《社会教育》	
《スポーツ・文化》	
《環境整備》	
5 学識経験者の知見	… 49 頁
(1) 点検及び評価全般	
(2) 取組ごとの知見	
6 今後の取組	… 52 頁

※文中、読みやすさを重視するため、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策」を「感染症対策」と略して表記している旨ご了承ください。

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。

柳井市教育委員会では、法の規定に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、令和4年度の教育委員会の取組の執行状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見も踏まえた上で、点検及び評価を行いました。その結果をまとめましたので、報告します。

2 前年度の学識経験者等による主な知見と反映

- (1) 個性に応じることは大切なことではあるが、教育を子ども側だけのものにしてしまうと義務教育がぶれてしまう。人としてしっかり身に付けるべき基本的なことは、しっかり押さえる必要がある。

≫ 児童生徒は、学校という集団生活の場において共に生活を送る中で、いろいろな経験から、集団における『個の在り方』と『他者への配慮』を身に付けていきます。そのため、様々な学習規律や、生活上のルールを意識し学んでいくことは、とても大切です。

今後とも、身に付けるべき基本的な学習形態や習慣をしっかりと踏まえながら、子どもたちの実情にも十分配慮して、健全な児童・生徒の育成に努めてまいります。

- (2) 国連において、インクルーシブな学びの実現を求める勧告があったと聞く。増加傾向にある特別に支援を必要とする児童生徒が、安全で、安心して学習できる環境づくりへの配慮に努められたい。

≫ インクルーシブ教育とは、障害のある児童・生徒と、ない児童・生徒が、一緒に教育活動を行うことで、共生社会の実現をめざすものです。自分と異なる立場の人と関わることで、互いを尊重し、思いやり、多様性を受け入れることができるといわれています。

障害の状態や特性に応じた学習環境の整備や、学校全体として、専門性を考慮した教職員による指導体制など、合理的配慮が図れるよう対応に努めてまいります。

- (3) 児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、施設や設備の改善には適宜努められたい。

≫ 施設面では、校舎躯体の耐震化を完了し、屋内運動場非構造部材の耐震化も計画的に進めています。設備面では、トイレの洋式化を小学校は完了し、中学校の改修を行っています。空調設備は、普通教室への設置を完了し、特別教室への設置を行っています。

引き続き、ポストコロナの新たな日常と、スタンダードな学校施設の実現に向け、学校やPTA連合会等の意見を踏まえ、適切に整備、改善に取り組んでまいります。

3 点検及び評価の実施

(1) 点検及び評価の対象とした取組

本市では、平成 27 年 11 月に「柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画」（計画期間：平成 28 年度～令和 2 年度）を策定し、教育目標を『愛・夢・志をはぐくむ教育』と定め、サブタイトルを「スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進」とし、その実現に取り組んでまいりました。

また、令和 3 年 1 月には、それまでの教育を取り巻く環境や課題の変化を考慮した第 2 期の柳井市教育大綱・柳井市教育振興基本計画（令和 3～7 年度）を策定し、現在、その実現に取り組んでいるところです。

本計画では、学校を中心とした幅広い年齢層の市民が交流を深め、新たな絆を生み出し、学校、家庭、地域が一体となった人づくり・まちづくりを推進することによって、教育目標の達成をめざすこととしています。

このたびの評価の対象とした取組は、この第 2 期柳井市教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和 4 年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、「令和 4 年度柳井市の教育計画」に掲げた具体的な取組について点検及び評価を行いました。

(2) 点検及び評価の方法

個別評価票として、具体的な取組の成果と有効性について点検し、成果指標について下記の評価基準に基づく 1 次評価（内部評価）を行いました。

（成果指標の評価基準）

A：目的を達成できた。	[100%以上]
B：取組における改善事項はあるものの、概ね目的を達成できた。	[65～99%]
C：目的の一部を達成できたが、取組の改善が必要である。	[35～64%]
D：目的の一部しか達成できず、取組の抜本的な改善が必要である。	[0～34%]

また、点検及び評価の客観性の確保とその活用を図るため、教育に関し学識経験を有する者として教育委員会が委嘱した 3 人の委員による 2 次評価（外部評価）を実施し、「学識経験者の知見」として記載しています。

令和 4 年度は、感染のピークは過ぎたものの、事業の中止や縮小といった感染症対策の影響が、まだ色濃く残る年度となりました。

しかしながら、一般社会においては、徐々に行動制限も緩やかとなり、市民の学習活動も活発さを取り戻しつつある年でもありました。

特に、学校現場においては、継続して手洗い等の対策には留意しつつも、集団活動の緩和やマスクの取り外しなど、明らかに、コロナ禍以前の教育活動に戻りつつあることが伺い知れる学校生活に変ってきています。

このことから、昨年度同様コロナ禍の影響による別欄を設けない評価形式としています。

(3) 点検及び評価の流れ

事務事業の選定（柳井市の教育計画に掲げる具体的な取組）全 104 取組

- 1 次評価（教育委員会：内部評価）
- 2 次評価（学識経験者の知見：外部評価）
- 教育委員会会議での協議・議決
- 市議会への報告及び公表

4 点検及び評価

(1) 事務事業の評価結果集計（全体）

評価対象年度	業務評価				
	A	B	C	D	計
令和 4 年度	21	4	4	2	31
構成比%	67.8	12.9	12.9	6.4	100.0

(2) 事務事業の評価結果集計（箇所別）

担当課	業務評価				
	A	B	C	D	計
教 育 総 務 課	2	1			3
学 校 教 育 課	12	1	2	1	16
生 涯 学 習 ・ ス ポ ー ツ 推 進 課	5	1	1	1	8
人 権 教 育 室		1			1
図 書 館	1				1
サ ン ビ ー ム や な い	1				1
学 校 給 食 セ ン タ ー			1		1
計	21	4	4	2	31

(3) 具体的施策と個別評価票

愛、夢、志をはぐくむ教育

～ スクール・コミュニティによる教育のまちづくりの推進 ～

1 自分を愛し、人を愛し、地域を愛する教育の推進

～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1

人権教育の推進

愛の2

生涯学習の推進

愛の3

青少年の健全育成

愛の4

芸術・文化の振興

愛の5

スポーツ・レクリエーション活動の振興

愛の6

歴史・伝統の継承と保護

愛の7

郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進

～学校、家庭、地域の連携による人づくり、まちづくりの推進～

夢の1

学校運営協議会の機能の強化

夢の2

学校応援団のさらなる充実

夢の3

地域協育ネットの充実

夢の4

幼保小中高連携の強化

夢の5

家庭の教育力を高めるための支援の強化

夢の6

放課後子ども教室の充実

3 志を実現させるための力の育成

～「生きる力」の確実な育成を基盤としたキャリア教育の推進～

志の1

「確かな学力」の育成

志の2

「豊かな心」の育成

志の3

「健やかな体」の育成

志の4

キャリア教育の推進

志の5

特別支援教育の充実

志の6

生徒指導の充実

志の7

幼児教育の充実

志の8

教職員の資質向上

4 基本方針を支える環境整備

(1) 情報発信の充実

(4) ICT環境の整備・充実

(2) 安全で快適な学びの環境づくり

(5) 学校教材、図書の整備・充実

(3) 学校の適正規模・適正配置

【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の1 人権教育の推進

業務の 対象	学校、企業、保護者、 市民	意図(対象 をどうし たいのか)	一人ひとりの人権意識の向上を図る。				
指標 1	人権教育研修会の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		33	23	27			
経 費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	682 千円	659 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 人権教育の推進

○ 人権教育研修会の開催 [人権教育室]

- ・学校、企業、保護者及び市民を対象とした人権講座を、延べ 27 回開催
- ・多様な性のあり方や、インターネット上の問題をテーマとした講座をはじめ、人権課題等の状況に関する講義を実施
- ・人権教育推進委員会は、1 回開催

② 相談・推進体制の充実

○ 指導者の養成 [人権教育室]

- ・指導者対象の研修、講座を 7 回開催
- ・講義後のアンケートに、「人権と言っても多くの分野があると感じた。」との感想が記されるなど、人権意識向上へ向けた指導者としての動機づけにつながる評価を複数得た。

③ 人権啓発活動の推進

○ 児童生徒の作品募集 [人権教育室]

- ・人権啓発ポスターの募集により、市内小・中学校から、269 人の応募（毎年開催）
- ・受賞作品の市役所ロビー展示や市報掲載により、保護者や市民に広く周知

<人権教育研修会の開催件数> [人権教育室]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
1	B	B			
主な理由	・成果指標 33 回/年に対し、約 8 割となる 27 回/年の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修会の開催回数や参加者数は、コロナ禍以前の令和元年度数値に戻っていない。
- ・心の根幹に問い掛ける課題もある中、幅広く継続的に開催していくことが重要である。

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の2 生涯学習の推進

業務の 対象	学校、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	学習機会の確保と、学校図書館や複合図書館開館に 向けての連携を図る。				
指標 2	図書館連携会議の開催 件数(回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	2	3			
3	公民館講座や各種教室 の開催件数(講座/年)	100	61	76			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	97,126 千円	65,393 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 普及啓発活動の推進

- 学習情報の提供 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・グループサークルの紹介冊子を各公民館等に配布・設置。併せて、市ホームページに掲載
 - ・各種教室や講座の開催情報を、市報、市ホームページ、公民館だよりに掲載し周知

② 学習活動の多面的支援と相談体制の充実

- しらかべ学遊館との連携 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・しらかべ学遊館に社会教育指導員2人を配置し、本課との業務を連携
 - ・展示室に生活民具を常設展示し、やないの暮らしを紹介。社会科見学等17件
- 学校図書館との連携強化 [図書館]
 - ・学校司書との連携会議を3回開催
 - ・県立図書館からの講師派遣を受け、図書資料修繕講習会を開催
 - ・児童書の見計らいを実施し、児童書を充実
- 図書資料の充実 [図書館]
 - ・図書購入費2,192冊3,505千円、貸出点数114,911冊
 - ・新たに4者の雑誌スポンサーを得て、購入契約合計13件16誌
- 図書館の魅力の発信 [図書館]
 - ・10/14～11/13 及び 11/15～12/18、教育委員会に寄贈された「高田家資料」を展示
 - ・月性資料のデジタルアーカイブ公開…10月4点、3月17点
 - ・9月、一般向け「映画上映会」開催、参加15人
 - ・10月、柳井図書館まつり「みんなのわくわく図書館」開催、参加242人(人数限定)
 - ・11月、大畠図書館まつり「子どものひろば」開催、159人参加(人数限定)
 - ・10月、国木田独歩講演会開催、参加18人
 - ・1月、防災講習会開催、参加13人
- 複合図書館への対応 [図書館]
 - ・図書館協議会を設立し協議会を2回開催
 - ・12月、中高生向け図書の選書会開催、参加9人

③ 人材・組織の育成

- 公民館講座や各種教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・中央公民館及び各地区公民館において、76 件の講座、教室を開催
- 各種研修会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・公民館職員東部地区研修（柳井市）13 人参加

④ 学習成果発表会の充実

- 公民館まつり等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・「柳井まつり協賛展覧会」、「中央及び各地区公民館まつり」等の開催

⑤ 生涯学習推進体制の整備充実

- 講演会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・7 月に「山口県立大学サテライトカレッジ」を 3 回開催
- 公民館の整備 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・旧阿月小跡地に新たな公民館を整備するため旧校舎、地区体育館、旧保育所等の解体並びに出張所及び地区体育館の機能を有する新たな公民館建設の実施設計を実施
- 社会教育施設の活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・9 月に星の見える丘工房での「天体観測会」を 1 回開催（計画 3 回）し、延べ 21 人参加
 - ・感染症対策のもと、新庄公民館及び星の見える丘工房での陶芸活動を継続実施

<図書館連携会議の開催件数> [図書館]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
2	B	A			
主な理由	・成果指標 3 回/年に対し、3 回開催の成果であったこと。				

<公民館講座や各種教室の開催件数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
3	C	B			
主な理由	・感染症対策をしながら講座・教室を開催したが、成果指標 100 回/年に対し、76 回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・生活スタイルや教育的機能の変化により、多様な学習機会の提供が求められている。
- ・幅広く提供主体を求め、従来どおり以外の学習機会を模索することも大切である。
- ・学校や地域との連携をより強化し、図書館来館者の増加に向けた取り組みを行っていく必要がある。
- ・図書館への来館者や、貸出冊数の増加のより、ニーズに応じた図書資料の充実を図る必要がある。

愛の 3 青少年の健全育成

業務の 対象	青少年	意図(対象 をどうし たいのか)	街頭補導やあいさつ運動を通じ、青少年の非行を防止する。				
指標 4	少年補導員による街頭 補導回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		30	30	30			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	2,162 千円	2,188 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 青少年育成センターの充実

○ 街頭補導の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・少年補導員 46 人により、市内全地区において巡視を 30 回実施
- ・青少年健全育成市民会議常任委員会は、感染症対策により書面開催
- ・7 月に青少年問題協議会を開催し、状況報告や取組内容の情報交換及び共有

② 青少年を取り巻く環境の整備

○ 小中高生徒指導連絡協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・6 月 21 日開催の協議会で、小中学校及び関係機関による状況報告や情報を交換・共有

○ 成人祝賀式及び二十歳の集い（旧成人祝賀式）の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・令和 4 年柳井市成人祝賀式は令和 4 年 4 月 30 日に開催し、参加者 168 人
（新型コロナウイルス感染症の影響のため令和 4 年 1 月 8 日に予定していたが、延期）
- ・令和 5 年柳井市二十歳の集いは、1 月 7 日に開催し、参加者 187 人

<少年補導員による街頭補導回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価 4	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A			
主な 理由	・成果指標 30 回/年に対し、30 回実施の成果であったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・少子化や生活様式の変化により、街中でこどもの姿を見かけることが少なくなっている。
- ・SNS 対策も、併せて実施する必要がある。
- ・過去補導した店舗従業員等と人間関係をつくり、スムーズに活動できるよう努めている。

愛の4 芸術・文化の振興

業務の 対象	学校、団体、市民	意図(対象 をどうし たいのか)	芸術や文化に触れ合う機会の充実と、自主的な活動 への支援を推進する。				
指標 5	サンビームやない自主 文化事業の開催回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	1	5			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	454 千円	390 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 文化にふれあう機会の充実

- 美術展覧会等の開催 [生涯学習・スポーツ推進課] [図書館]
 - ・短詩型文学祭を開催。投稿数(短歌部門 50 首、俳句部門 52 句)
 - ・11/12～16 開催「市美術展覧会」では、出展数 174 点、1,083 人の来場者

② 自主的な芸術・文化活動の促進

- 自主文化事業の開催 [サンビームやない]
 - ・8/21 開催「次世代アーティストによるサマーコンサート」(入場者 159 人)
 - ・11/20 開催「サザンセト音楽祭 洋楽の部」(入場者 450 人)
 - ・12/18 開催「スタインウェイを弾く会」(入場者 116 人)
 - ・1/15 開催「サザンセト音楽祭 伝統芸能・邦楽の部」(入場者 200 人)
 - ・3/ 4 開催「ぶるぼん感謝のお笑いライブ」(入場者 800 人)
- 施設の適正な管理運営 [生涯学習・スポーツ推進課] [サンビームやない]
 - ・市文化福祉会館・勤労青少年ホーム(指定管理)利用者 38,315 人
 - ・文化福祉会館修繕・改修…トイレ手洗器自動水栓化等
 - ・サンビームやない 使用率 32.1% 入場者数 20,656 人
 - ・サンビームやない修繕・改修…屋上膨張水槽廻り改修工事等

<サンビームやない自主文化事業の開催回数> [サンビームやない]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
5	D	A			
主な理由	・成果指標 3 回/年に対し、5 回開催の成果であったこと。 ・新事業として、「次世代アーティストによるサマーコンサート」及び買取公演「ぶるぼん感謝のお笑いライブ」を開催した。				

[今後の課題と改善案]

- ・出品者が固定化する傾向があるため、新たな出品者増加への周知を図る必要がある。
- ・サンビームは、場所を提供する貸館事業と、買取公演を含めた企画運営に携わる自主文化事業があり、継続的な機会の提供のためには計画的な取組が必要である。
- ・個別施設計画の策定など、施設の長寿命化対策を検討していく必要がある。

愛の5 スポーツ・レクリエーション活動の振興

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	スポーツ参加の機会拡充による健康の増進。				
指標 6	市主催大会への参加者 数(延べ人数)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		5,600	0	666			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	150,417 千円	158,187 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 生涯スポーツの推進

○ スポーツ活動への参加促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・「市民スポーツ・レクリエーションのつどい」は、感染症対策により中止
- ・「第35回市民駅伝競走大会」、「第65回柳井市ロードレース大会」及び「琴石山健康ハイキング大会」は、規模縮小等感染症対策を図りながら実施

② 技術力の向上

○ スポーツに関する競技水準の向上推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市体育協会を通じ、同協会が実施する加盟団体活性化事業や、優秀な成績を挙げた個人及び団体への表彰式の開催などに対し、競技水準向上に向けた取組に対する助成（柳井サッカー協会、柳井市フェンシング協会、柳井市バスケットボール協会）
- ・全国大会等出場者への激励金交付は、124件
- ・県体育大会への激励金は、一般163件、スポーツ少年団135件

③ 人材の育成

○ スポーツをととした青少年の健全育成 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・市スポーツ少年団団員募集の冊子を市内全小学校児童に配布
- ・市スポーツ少年団主催の「体力テスト」は感染症対策により中止、「親子交歓会」は9団体161名参加

④ スポーツによる地域活性化

○ 地域交流及び情報発信の推進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・大学運動部等による「スポーツ合宿」の助成件数は、5件
- ・例年10月開催の「サザンセット・ロングライド」は、感染症対策により中止

⑤ スポーツの場の充実及び施策の推進

○ 施設の整備及び利用の促進 [生涯学習・スポーツ推進課]

- ・アデリーホシパーク(柳井ウエルネスパーク)の時計の更新、昇降機修繕、浴室天窓壁修繕及び大型サーモスタット取替修繕を実施

・ バタフライアリーナ(市体育館)の雨漏り修繕を実施

・ スポーツ施設の年間利用者数は、458,632 人

○ スポーツに関する功績者の顕彰 [生涯学習・スポーツ推進課]

・ 市スポーツ推進条例、市教育委員会選奨規則及び市表彰規定に基づく功績等の情報収集

・ 市功労者表彰は「山口県立柳井商工高等学校バドミントン部」が受賞

＜市主催大会への参加者数＞ [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
6	D	D			
主な理由	・ 感染症対策により、市主催行事が一部開催できなかったこと。				

[今後の課題と改善案]

・ 各種行事ともコロナ前の形での実施を予定。市民のスポーツ活動への関心、参加が高まるよう内容の検討を行う必要がある。

【参考】 柳井市スポーツ少年団を構成する 23 団体

空手道	全日本空手道連盟和道会正心館 武心会柳井空手
剣道	カワノ道場 新庄少年剣友会 清徳館剣道
柔道	斉藤柔道クラブ
水泳	やないスイミングクラブ 柳北水泳
レスリング	大畠レスリング 斉藤道場レスリング
硬式野球	ヤングSAD
ソフトボール	新庄ブルーイーグルス 余田みどり
軟式野球	伊陸ひむろ 大畠うずしおマリーンズ 柳井ゴールドスターズ 柳北
サッカー	SAファイターズ 周東エンジェルス
バスケットボール	新庄ミニバス 柳井バスケットボール
バドミントン	柳井JBC
バレーボール	柳井SAボンバーズ ユナイト JVC

【参考】 柳井市体育協会を構成する 22 団体

柳井サッカー協会 柳井市合気会 柳井市アーチェリー協会 柳井市空手道連盟
柳井市弓道連盟 柳井市グラウンド・ゴルフ協会 柳井市ゲートボール協会
柳井市剣道連盟 柳井市柔道協会 柳井市水泳連盟 柳井市スキー連盟
柳井市卓球協会 柳井市テニス協会 柳井市レスリング協会
柳井市バスケットボール協会 柳井市バドミントン協会 柳井市バレーボール協会
柳井市フェンシング協会 柳井市野球連盟 柳井市陸上競技協会
柳井ソフトテニス協会 柳井ソフトボール協会

【参考】 柳井レクリエーション協会を構成する 6 団体

SAアウトドアクラブ 柳井市アーチェリー協会 柳井市グラウンド・ゴルフ協会
柳井市ゲートボール協会 柳井市ソフトバレーボール連盟 柳井フォークダンスクラブ

- 【基本方針】 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進
～自己肯定感、他者肯定感、地域肯定感の育成～

愛の6 歴史・伝統の継承と保護

業務の 対象	市民	意図(対象 をどうし たいのか)	郷土の歴史伝統を身近に感じる機会の提供と、次世代に継承する支援を行う。				
指標 7	歴史民俗資料館等での 団体及び学校利用回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		15	41	23			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	40,670 千円	23,796 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 地域の文化遺産の保存と活用

- 歴史民俗資料館等施設の活用 [文化財室]
 - ・しらかべ学遊館で「原庄一氏の生涯と保存資料」「有実遺跡、松成西遺跡発掘調査」の展示
 - ・月性展示館では、追慕記念行事を3年ぶりに開催、来館者451人
- 文化遺産の保全 [文化財室]
 - ・小田家博物館の主屋、外壁等保存修理を実施
- 伝統的建造物群保存地区の保存事業 [文化財室]
 - ・対象家屋の屋根など2件の緊急修理を実施

② 伝統文化・芸能の保存・継承

- 活動の支援と後継者の育成 [文化財室]
 - ・阿月神明祭頭彰会への補助金交付（神明音頭デジタル録音及び「日本の祭り in やまぐち」での神明踊り披露）

<歴史民俗資料館等での団体及び学校利用回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
7	A	A			
主な理由	・コロナ禍により増えていた県内の見学者が減少したが、成果指標は達成できているため。				

[今後への課題、または改善案]

- ・未指定及び未確認となっている文化財を調査する必要がある。
- ・感染症対策により中止となった行事や祭り等の再開を支援する。

愛の7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	教職員と保護者、地域住民が連携しながら、地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材を開発し、子どもたちが地域の伝統や文化に親しみや誇りを感じるような授業づくりを行う。				
指標 8	地域の文化財や歴史的 出来事の教材開発 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	0			
9	ゲストティーチャーに よる授業(全校)	13	13	13			
経 費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	483 千円	0 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 地域の文化財や歴史的出来事を生かした教材開発

○ 地域の文化財や歴史的出来事の教材開発 [学校教育課]

- ・令和2年度作成の小学校社会科地域教材「ふるさと柳井」、及び令和3年度改訂の「ふるさと柳井(地図)」を活用し、社会科授業の充実を図った。

○ 文化財の情報発信と活用 [文化財室]

- ・市文化福祉会館で「郷土史講座」を開催し、6回延べ250人の受講
- ・社会教育指導員による「郷土史コラム」を、市報に累計12回掲載
- ・発掘調査(県調査)は、余田「梶遺跡、鋳物師屋遺跡」を実施
発掘調査報告業務は、伊陸「片山平遺跡、松成東遺跡」を実施
発掘調査報告展示(しらかべ学遊館)は、伊陸「有実遺跡、松成西遺跡」を実施

② 生きた歴史を学ぶための、ゲストティーチャーによる授業の実施

○ ゲストティーチャーによる授業 [学校教育課]

- ・地域の人をゲストティーチャーとして招聘し、『柳井の町について』のはなしなど、地域の特色を生かした授業を実施
- ・小学校社会科では、地域農家の畑づくりや、田植えの体験型学習を実施

<地域の文化財や歴史的出来事の教材開発> [学校教育課]

評価 8	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	D			
主な 理由	・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井(地図)」の教材開発を行っていないこと。				

<ゲストティーチャーによる授業> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
9	A	A			
主な理由	・全校において、学校教育目標や発達段階、教育課程に合った地域のゲストティーチャーを招聘することで、有用な授業支援ができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」を活用していく中で、気付きや課題を蓄積し、次回改定時に反映することが大切である。
- ・「ふるさと柳井」、「ふるさと柳井（地図）」のほかにも、それぞれの地域が学校に応じた教材の活用や開発に努める。
- ・ゲストティーチャーによる授業を他分野で活用できるよう地域との連携を密にし、教育的資源の発掘と情報収集に努める。

[参考] 社会教育指導員による市報「郷土史コラム」掲載(12 回)

やないの先人たちの知恵と汗―臨時掲載

郷土史コラム

新たに指定された文化財・高山寺の仏像②

市教育委員会 社会教育指導員 松島幸夫

前回から本市の有形文化財に指定された、伊陸の高山寺に安置されている仏像を紹介していますが、今回は釈迦如来像の脇に置かれた迦葉尊者立像と阿難尊者立像、須弥壇の下に置かれた達磨大師坐像と大権修利菩薩倚像の4体を紹介します。

迦葉尊者立像は、釈迦如来像の左（向かって右）に立っており、釈迦十大弟子の1人です。釈迦の入滅後に教団を率いた人物で、釈迦に次いで「仏教第二祖」と称されます。我欲を捨てて清貧に徹しました。本像は老年の姿です。法衣を左肩から斜めに流して、胸は裸形です。強い意思を感じさせる引き締まった顔相です。口をやや開けており、説法を発しているようです。



▲迦葉尊者立像

阿難尊者立像は、釈迦如来像の右に立っており、これまた釈迦十大弟子の1人です。釈迦の説法に常に立ち会いました。聞き漏らすことがなかったことから「多聞第一」と言われ、迦葉の死後に教団を率いたので「仏教第三祖」と称さ



▲阿難尊者立像

れます（美男子であったと伝わっています）。本像も端正な顔相に造られています。静かに合掌している姿には、知恵と品位が漂っています。

達磨大師坐像は須弥壇の下、向かって右奥に置かれています。座禅を組んで悟りを開こうとしている姿です。ゆったりと無理のない姿勢で座り、全てを許容するかのような空気が漂います。顔と胸以外を納衣で隠しており、禅定印を結んでいる手も覆われています。



▲達磨大師坐像

大権修利菩薩倚像は須弥壇の下、向かって左奥に置かれています。帝王の冠帽を被り、文様が鮮やかな衣服をまとう腰を掛け、右手を額にかざして遠方を見詰めています。南海からの船を安全に航行させる役割を担い、禅宗を守護しています。



▲大権修利菩薩倚像

●問い合わせ 文化財室 ☎2111 内線 332

2022. 4 月号

夢の1 学校運営協議会の機能の強化

業務の 対象	学校関係者 学校運営協議会委員	意図(対象 をどうし たいのか)	学校運営協議会をさらに充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。				
指標 10	コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	2	2			
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	0 千円		0 千円				

〔主な取組の成果と有効性〕

- ① 学校、家庭、地域住民の連携と協働に根ざしたコミュニティ・スクールの運営
 - コミュニティ・スクールの運営推進書の作成 [学校教育課]
 - ・各学校においてCS経営案を作成し、年間を見通した学校運営を図ることができた。
 - 地域に開かれた学校要覧の作成 [学校教育課]
 - ・学校要覧に、CS経営案や経営方針、学校応援団との学習の様子などを掲載
- ② スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校運営協議会の活性化に向けた支援と情報発信
 - 学校運営協議会への支援 [学校教育課、生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・地域学校協働活動推進員や指導主事が、すべての学校の学校運営協議会に参加し、学校や地域の実態把握と情報共有を図ることができた。
- ③ 教職員が一体となってコミュニティ・スクールの運営にあたる仕組みづくり
 - 校内体制の整備 [学校教育課]
 - ・地域連携担当教員を校務分掌に位置付けた体制を整備
 - ・学校運営協議会委員には、授業を定期的に公開し、助言を受けている。
- ④ 地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームの整備・活用
 - コミュニティ・ルームの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・コミュニティ・ルームを地域の活動場所として積極活用し、地域との交流を促進

＜コミュニティ・スクールの運営に関する教職員対象の研修会等の実施回数＞[学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
10	A	A			
主な理由	・「やない教育の日」に、地域連携教育合同研修会を実施し、学校運営協議会における活動や役割を再確認することができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・地域連携担当教員だけでなく、すべての教職員に情報が行き渡るよう、校内研修会等において復伝の徹底を図る必要がある。
- ・学校、家庭、地域の協働活動への道筋を見出せるよう、その協議内容や進行方法を工夫する。
- ・各学校における拡大学校運営協議会の取組を支援し、小中が連携した取組の推進の充実を図る。

[参考] 学校運営協議会の様子



夢の2 学校応援団のさらなる充実

業務の 対象	学校関係者、 学校応援団員	意図(対象 をどうし たいのか)	新たな人材の確保と学校の実情に応じた活動の支援 を推進することで学校教育の充実をめざす。				
指標 11	各学校の地域コーディネーターとの協議回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		6	5	6			
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	258 千円		263 千円				R 7

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校応援団の充実に向けた支援
 - 学校応援団研修会の実施 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・学校と地域をめぐる制度や仕組みに関する研修のほか、本市の取組方針についての協議を実施（1回）
- ② スクール・コミュニティセンターによる、学校応援団に関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（学校応援団部分）
- ③ 学校応援団の新たな登録者の募集
 - 新たな学校応援団登録者の募集 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・市報や各学校制作のチラシ募集により、41 団体、1,044 人が登録
 - ・各学校の特色や地域性を生かして、年間延べ 16,668 人が活動
- ④ 校内コーディネーターの活動を支援
 - 地域コーディネーターとの情報交換 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティセンターにおいて、各学校の地域コーディネーターが参加しての活動状況報告や意見交換会を 5 回開催

<各学校の地域コーディネーターとの協議回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
11	B	A			
主な理由	・学校運営協議会や地域コーディネーターの集会に参加し、学校と地域の活動把握などの情報共有を行うことができたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・スクール・コミュニティだよりの充実を図る必要がある。
- ・多様な地域の人材の発掘と、参画に導く機会の提供に取り組む必要がある。

夢の 3 地域協育ネットの充実

業務の 対象	学校、保護者、 地域住民	意図(対象 をどうし たいのか)	地域ぐるみで子どもの学びや育ちを支援する仕組み づくりや活動を推進する。				
指標 12	スクール・コミュニティだよりの発行回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		3	10	12			
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	1,207 千円		1,234 千円				R 7

[主な取組の成果と有効性]

- ① スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットの活動の充実に向けた支援
 - 地域協育ネット協議会への参加 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・本市職員が、すべての学校の学校運営協議会と協育ネット協議会に参加し、他地域の好事例紹介や、地域連携に関する取組方針等を説明
 - ・地域コーディネーターに対して、課題解決に向けた働きかけの支援
- ② スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットに関する情報収集と情報発信
 - スクール・コミュニティだよりの発行 [生涯学習・スポーツ推進課]
 - ・スクール・コミュニティだより「こやらい」の中で、市内各校の取組事例や、学校と地域をめぐる制度や仕組みについて紹介（地域協育ネット部分）

<スクール・コミュニティだよりの発行回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
12	A	A			
主な理由	・成果指標 3 回/年に対し、12 回/年発行し、市内各校の取組を紹介できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・成果指標を達成していることから、題材の深掘りや、センターの効果的活用などの編成内容の更改を検討する必要がある。

夢の4 幼保小中高連携の強化

業務の 対象	幼稚園、保育園（所）、 小学校、中学校、 高等学校	意図(対象 をどうし たいのか)	小・中学校の連携を核として幼稚園、保育園（所）、 高等学校との連携を強化することで、将来の地域社 会を支える人材の育成に努める。				
指標 13	校種間連携を推進する 協議会の開催回数 (各協議会1回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		4/4	3/4	3/4			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 幼保小連携協議会の開催

○ 幼保小連携協議会の開催 [学校教育課]

- ・2月に幼保小連携に関わる保育士、教諭等を対象とした協議会を1回開催
- ・発達段階における子どもの育ちを十分に理解し、一貫した指導体制の構築につなげた。

② 小中一貫教育に関する研究の推進

○ 小中一貫教育校の授業公開への参加 [学校教育課]

- ・各学校に、県教委主催による授業公開や、附属学校による研究発表会の情報を発信し、連続した9年間の学びについての意識の向上を図った。

③ 校種間連携による教育活動の推進

○ 校種間連携を推進する協議会の開催 [学校教育課]

- ・例年開催の「小中高連携教育推進協議会」は、感染症対策により中止
- ・「柳井市小中高生徒指導連絡協議会」と「柳井市学校保健委員会」を開催し、生徒指導や保健関係についての情報を共有し、連携を深めた。

<校種間連携を推進する協議会の開催回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
13	B	B			
主な理由	・感染症対策により開催を中止した会議等もあるが、概ね開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・幼、保、小、中、高の教職員がお互いを知ることから始まり、設定した共通のテーマに向け取り組んでいくことが必要である。
- ・年1回の取組から、年2回の取組とすることで、1年間の取組の計画と年度の反省を行い、内容の改善を図ることができる。

夢の5 家庭教育の教育力を高めるための支援の強化

業務の 対象	学校、保護者	意図(対象 をどうし たいのか)	家庭を支える多様なネットワークづくりをとおし て、家庭教育力を高める。				
指標 14	目標の成果を検証する アンケートの実施回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2	2			
15	保護者を対象にした研 修会の開催回数(回/年)	6	6	7			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	53 千円	34 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 家庭教育力を高めるための支援の充実

- 家庭教育支援チーム員の育成 [生涯学習・スポーツ振興課]
- ・ 県教委主催「家庭教育アドバイザー養成講座」の参加支援や、保護者を対象とした講座実施のための研修を実施

② 家庭児童相談員及び少年安全サポーターの配置

- 少年安全サポーターの活用 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 各小中学校における防犯指導・訓練を実施

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域の行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
- ・ 地域の清掃活動や交流行事への参加は、状況に応じて徐々に再開
- ・ 米づくり体験や職場体験などの学校と地域が連携した体験活動は、感染対策に努め実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【志の1④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
- ・ 休日や長期休業期間を利用し、異校種の生徒や地域の方が教師役を務めた学習会を実施

⑤ 家庭教育支援に係る情報提供や保護者間の人間関係づくりの機会の充実

- 保護者を対象にした研修会の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 保護者同士の人間関係づくりを目的とした「グループワーク研修」を7校で実施し、51人参加

<目標の成果を検証するアンケートの実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
14	A	A			
主な理由	・保護者や地域へのアンケートを計画通り行うことができたこと。				

<保護者を対象にした研修会の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
15	A	A			
主な理由	・成果指標 6 回/年に対し、7 回/年の研修会を開催し、研修後のアンケートでは、その内容に対し、9 割を超える肯定的な回答を得たこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・家庭教育に関するアンケートを各学校の実情に応じて実施している中で、学校ごとの課題を見つけ、今後の教育活動にどう生かすかを検討する必要がある。
- ・アンケート内容を精査し、各学校の教育活動を通じて、各家庭の教育力の向上に寄与するためにも、回答率を上げる必要がある。
- ・山口県教育委員会主催「家庭教育アドバイザー養成講座」への参加を促し、保護者の子育てに関する不安や悩みを軽減する地域人材を育成する。

[参考] 学びのサイクルの充実
～「振り返り」から授業改善～

「振り返り」の視点（例）

1. 学習で身についた力を振り返る
2. 自己の変容を振り返る
3. 学び方を振り返る
4. うまういかなかったことを振り返る
5. 仲間との学びから振り返る
6. これまでの学びと繋げて振り返る
7. 今後の学びと繋げて振り返る



夢の6 放課後子ども教室の充実

業務の 対象	児童	意図(対象 をどうし たいのか)	子どもの遊び場としての放課後子ども教室の充実を 推進する。				
指標 16	放課後子ども教室の開 催回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		24	4	13			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① しらかべ学遊館による放課後子ども教室の実施

- 放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 昔の遊びや、ものづくり等の体験活動を4回開催

② 学校を単位とした放課後子ども教室の実施

- 各学校における放課後子ども教室の開催 [生涯学習・スポーツ推進課]
- ・ 感染症対策により未開催

<放課後子ども教室の開催回数> [生涯学習・スポーツ推進課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
16	D	C			
主な 理由	・ 成果指標 24 回/年に対し、13 回/年の開催となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 開催する地域の実情に応じたプログラムを展開する必要がある。
- ・ 中高生を含め、学習支援のボランティアを拡充する必要がある。

志の1 「確かな学力」の育成

業務の対象		児童、生徒、 学校関係者	意図(対象をどうしたいのか)	学校の組織的な取組の軸として、家庭、地域が連携して子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等、そして主体的に学習に取り組む態度などの資質・能力を育成する。				
指標 17	学力向上推進リーダー による訪問指導（全校）		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			13	13	13			
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	0 千円		0 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 学習指導要領の着実な実施

- カリキュラム・マネジメント [学校教育課]
 - ・中学校区ごとの協議の中で、「学校・地域連携カリキュラム」の作成を実施
- 学力の基盤となる力の育成 [学校教育課]
 - ・中学校区の研修会や市教委主催の授業研究会に、異校種教職員が参加し、様々な視点から授業改善に向けた協議の充実
 - ・学びのサイクルを意識した授業づくりを、市内全校において実践
- 年間授業時数の確保 [学校教育課]
 - ・すべての学校で「年間指導時数」を確保し、授業を実施
- ジュニア数学オリンピックの開催 [学校教育課]
 - ・これまでの取組により、一定の成果を得たことから発展的解消とし、新たな取組を検討中

② アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

- 学力向上推進リーダーの活用 [学校教育課]
 - ・「“学びのサイクル” 確認シート」を活用し、共通の視点から授業づくりの指導を実践
 - ・学校教育課職員と学力向上推進リーダーとの毎月の情報交換会により、随時情報を共有

③ データに基づいた着実なPDCAサイクルの実施

- 学力向上担当を集めた研究集会の実施 [学校教育課]
 - ・本市が取り組む施策の共通理解と、各校の学力向上への取組についての好事例を共有
 - ・補充学習と学びの振り返りに重点を置き、各校での具体的実施に向けて協議
 - ・学力向上研究集会を年2回実施

④ 学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立 【夢の5④】

- 学びのサイクルの質的な向上 [学校教育課]
 - ・休日や長期休業期間を利用し、異校種の生徒が教師役を務めた学習会を実施

⑤ 読書活動の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課]

- ・読書指導ほか、学校司書と司書教諭を中心として学校図書館活用の促進が図れた。
- ・展示する本の種類や並べ方を替えたり、学級委員会等において積極的に読書活動を推進するなど、児童、生徒と共になっての図書環境づくりに工夫が見られた。

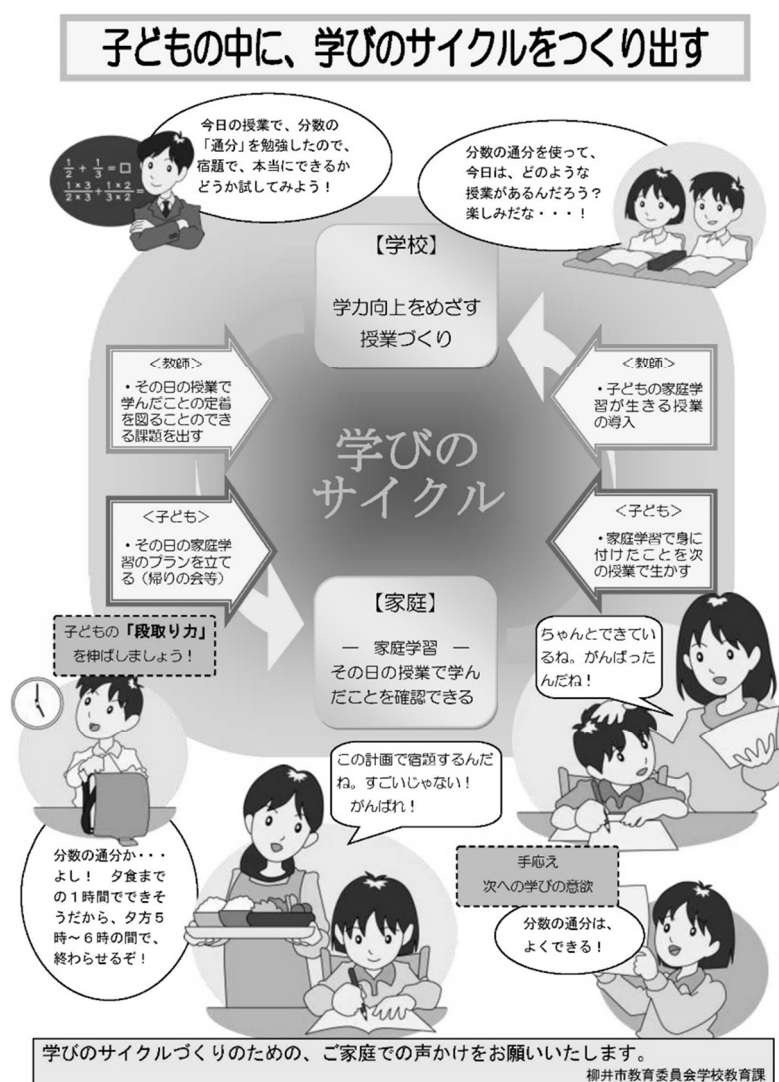
<学力向上推進リーダーによる訪問指導> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
17	A	A			
主な理由	・すべての学校を学力向上推進リーダーが訪問し、授業内容の指導や研修会を実施、開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・感染症対策により、学校内において地域の人の活躍の場を設けることが難しい状況であったが、少しずつ解消されてきた。

[参考] 学びのサイクルの充実



志の2 「豊かな心」の育成

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	学校、家庭、地域が連携しながら、学校の教育活動全 体を通じた道徳教育に関する取組を工夫・改善する。				
指標 18	道徳授業セミナーや各 種研修会への参加や授 業公開（全校）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	13			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 道徳科の授業における「考え、議論する道徳」への質的変換

- 「考え、議論する道徳」の実現に向けた指導 [学校教育課]
 - ・ 県教委主催「道徳セミナー」の参加と、不参加の学校への資料共有
 - ・ 県教委作成「考え、議論する道徳」を基にした、各学校における道徳科の授業実践

② 豊かな心をはぐくむための体験活動の充実

- 体験活動の年間指導計画への位置づけ [学校教育課]
 - ・ 沈静化する感染状況に合わせ、社会奉仕に関わるボランティア体験や、文化・芸術体験活動など徐々に実施
(ぶどう栽培体験、神楽体験、剣舞体験など)

<道徳授業セミナーや各種研修会への参加や授業公開> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
18	A	A			
主な 理由	・ 全学校とも、各種研修会への参加や、参観日等の道徳科授業の公開による家庭との連携の充実を図れたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 感染症対策により、各種研修会の中止や校外での体験活動の機会が減少傾向にあったが、徐々に解消されてきている。

志の3 「健やかな心」の育成

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	健やかな体をつくり、安全・安心を確保する。				
指標 19	新体力テスト等のデータによる柔軟性	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		全国平均 を上回る	男 4/13 女 3/13	男 4/13 女 8/13			
20	食育のための巡回訪問 の回数（回/年・校）	1	8/13	6/13			
経費	R 3		R 4		R 5		R 6
	0 千円		0 千円				

[主な取組の成果と有効性]

① 体力向上の推進

○ 柔軟性の向上 [学校教育課]

- ・各学校が作成した「新体力向上プログラム」を基に、体力の向上や運動習慣の改善に向けた1校1取組について、協議・助言を行った。
- ・新体力テストの柔軟性が全国平均を上回った学校は、男子が4校、女子が3校

② 学校保健の充実

○ 課題に即した学校保健活動 [学校教育課]

- ・学校保健委員会を2回開催し、小・中・高等学校間の課題について情報交換
- ・学校保健委員会のブロック研修において、設定したテーマの成果等を紀要にまとめ発行

③ 食育の充実

○ 食育のための巡回訪問 [学校給食センター]

- ・栄養教諭において、小学校6校で延べ14回実施
- ・直接、児童生徒から素直な感想を得ることで、細かく配慮した献立の作成に反映
- ・7月、沖縄県高嶺小と柳井小のオンラインによる郷土料理を題材とした交流を行い、食に関する知識を深める学習を実施

○ お弁当の日の推奨 [学校教育課]

- ・「マイランチデー」と称し、年3回のお弁当の日を中学校全校で実施。併せて、生徒の委員会活動等と連携し、写真の掲示や、コンテストを開催



[糸満市立高嶺小 Zoom 画像]

④ 安全教育の推進

○ 危険予測学習の実施 [学校教育課]

- ・全学校において、防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全等の安全学習を実施
- ・「学校安全取組状況調査」を基に、安全教育への取組について指導・助言

＜新体力テスト等のデータによる柔軟性＞ [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
19	D	C			
主な理由	・全国平均を上回る学校（男女別に数えて 26 校）が、7 校から 12 校に増加したこと。				

＜食育のための巡回訪問の回数＞ [学校給食センター]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
20	C	C			
主な理由	・全 13 校中、6 校での実施となったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・柔軟性の向上は、各校において体育の準備運動等で継続して取り組んでいるが、成果の上がっている学校と、そうでない学校がある。好事例を共有するとともに、日々の取組の成果が十分に発揮されるよう新体力テストの実施方法についても、共通理解を図って取り組めるようにする。
- ・中学校での「お弁当の日」の取組を小学校に紹介し、食への自立を促す。
- ・単年度で全学級を食育巡回訪問することは、時間割上難しく、各校調整のうえ可能な学校において実施している。食育動画や I C T 教材を活用するなど、より体感的な食育指導の実施に努める。

【参考】新体力テスト 小学校児童のテスト項目

- | | |
|------------|-----------|
| ・握力 | ・上体起こし |
| ・長座体前屈 | ・反復横とび |
| ・20mシャトルラン | ・50m走 |
| ・立ち幅とび | ・ソフトボール投げ |



【参考】アレルギー対応

学校給食センターから毎月配布の「アレルギー表」には、食品衛生法で義務付けられた特定原材料の 8 品目（えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生（ピーナッツ）、くるみ）と、表示が推奨されている 20 品目（アーモンド、あわび、いか、いくら、オレンジ、カシューナッツ、キウイフルーツ、牛肉、ごま、さけ、さば、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン）の合計 28 品目を表示。[令和 5 年 3 月末時点]

アレルギー反応がみられる児童・生徒には、原因となる物質や症状等に応じ、学校や保護者と協議・連携しながら対応している。

志の4 キャリア教育の推進

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	志や夢を持ち、人間力と社会力を兼ね備えた社会人・ 職業人として自立できる				
指標 21	「二分の一成人式」や 「立志式」の実施(全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	13	13			
22	「学校・地域連携カリ キュラム」の作成(全校)	13	13	13			
経 費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	11 千円	13 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 立志の教育の推進

- 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 [学校教育課]
 - ・ 全学校において、「二分の一成人式」や「立志式」を実施
 - ・ 生徒が、キャリア・パスポートを活用し、ふり返りと将来の見通しを繰り返すキャリア教育の視点をもって立志式に参加することで、自己肯定感を高めていけるように努めた。

② 教育活動全体をととしたキャリア教育の推進

- キャリア・パスポートの利用 [学校教育課]
 - ・ 小中高 12 年にわたる毎年の活動記録の蓄積から、次学年におけるキャリア形成の理解に役立てている。

③ 家庭や地域社会、異校種と連携した多様な体験活動の充実

- 地域行事等への参画の働きかけ [学校教育課]
 - ・ 屋外での地域行事や中学校の職場体験等、感染症対策のうえ参加

< 「二分の一成人式」や「立志式」の実施 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
21	A	A			
主な理由	・ 全学校で「二分の一成人式」と「立志式」を実施することができたこと。				

< 「学校・地域連携カリキュラム」の作成 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
22	A	A			
主な理由	・ 全学校で「学校・地域連携カリキュラム」を作成していること。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 各学校とも「学校・地域連携カリキュラム」を定期的に見直し、常に更新に努める必要がある。特に、グランドデザイン及び単元配列表の充実を要する。

志の5 特別支援教育の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	1人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を推進することができるようになる。				
指標 23	「柳井市特別支援教育 推進週間」の実施回数 (全校実施2回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		2	2	2			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	64 千円	64 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 相談支援体制の充実

○ 専門家会議の開催 [学校教育課]

- ・市内13ある幼稚園・保育園(所)に巡回訪問を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見と早期支援につなげた。【志の7①】
- ・6月と12月の2回、「柳井市教育支援委員会」を開催し、医学的・教育的な視点から、総合的に就学先について協議

② インクルーシブ教育システムの構築

○ 特別支援教育推進週間の設定 [学校教育課]

- ・全学校で、6月は「教室環境づくり」と「学級経営」、11月は「授業づくり」をテーマに各1週間ずつ実施し、学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につなげた。

③ 関係諸機関との連携の充実

○ 要請訪問の活用 [学校教育課]

- ・特別支援教育センターや、視覚・聴覚障害教育センターの地域コーディネーターを講師に招いた要請訪問を計23回実施。授業参観、教育相談、ケース会議及び校内研修等において、専門的な立場から具体的な指導・助言を得た。

④ 教職員の指導力の向上

○ 校内コーディネーター研修会の開催 [学校教育課]

- ・5月に柳井地域1市4町で「柳井地域特別支援教育校内コーディネーター研修会」を実施
- ・「個別の教育支援計画Q&A及び記入例 第3版」、「特別支援教育校内コーディネーターガイドブック」を用い、校内コーディネーターの役割について、研修を実施

<「柳井市特別支援教育推進週間」の実施回数> [学校教育課]

評価 23	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	A	A			
主な理由	・全学校において年2回の推進週間を実施し、学習環境や指導方法、教材の見直し・改善につながったこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ 県教委作成のチェックリスト「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用に向けた確認事項」を基に、「自立活動、交流及び共同学習の時間数の適切な設定ができているか」について、各学校が特別の教育課程を編成する段階で、十分に指導・助言する必要がある。

[参考] 市内 13 の幼稚園・保育園(所)

幼稚園

柳井幼稚園

柳美幼稚園

保育園

市立柳井南保育所

市立大島保育所

ルンビニ保育園

ルンビニ第二保育園

放光保育園

若葉保育園

羽仁保育園

ひづみ保育園

伊陸保育園

新庄保育園

余田保育園



[参考] 内閣府「共に生きる社会を作るために 身につけよう心の身だしなみ」から

① 障害の理解

- (1) 障害は誰にも生じ得る身近なもの
 - ・ 身体障害の半数は 18 歳から 64 歳の間の病気や事故によるもの
 - ・ うつと診断されるのは国民の 15 人に 1 人
- (2) 障害は多種多様で同じ障害でも一律ではない
 - ・ 障害の程度による違い
 - ・ 障害が生じた時期による違い
- (3) 外見では分からない障害もある
 - ・ 聴覚障害や心臓・腎臓等の内部障害
 - ・ 精神障害や自閉症等の発達障害等
- (4) 不自由はあるが周囲の理解や配慮があればできることが多い
 - ・ 地域での自立した生活、就労等

② 日常生活や事業活動の中での配慮や工夫

- (1) 困っていそうな場面を見かけたら、「何かお困りですか」と一声かけて、自分にできるお手伝いをしましょう。
- (2) 商品やサービスを提供する際には、障害のある利用者もいることを考えて、どのような配慮が必要か聞いてみましょう。
- (3) 「障害があるから」と決めつけず、それぞれの個性や能力を活用することを一緒に考えてみましょう。

③ 共生社会の実現

障害の有無にかかわらず誰もが人格と個性を尊重し支え合う社会

出展：内閣府 <https://www8.cao.go.jp/shougai/kou-kei/midasi.html>

志の6 生徒指導の充実

業務の 対象	教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	いじめや不登校等の課題に対応できる指導力の向上 を図る。				
指標 24	「柳井市いじめ問題研 修会」の開催回数 (回/年)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1	1			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	600 千円	600 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 相談支援体制の充実

- スクール・ソーシャルワーカーの配置 [学校教育課]
 - ・4人のSSWを10校の小・中学校に派遣し、120日、150時間稼働
 - ・問題を抱える児童生徒がおかれた環境へ働き掛けの必要がある事案が19件あり、令和4年度から新規の事案が12件

② SNSトラブルへの新たな取組の推進

- 中学生主体の研修会の開催 [学校教育課]
 - ・7月に柳井警察署との共催による「柳井市中学生リーダーズサミット」を開催。代表生徒や学校間での意見交流を通して、「SNS利用時の実践ルール」を生徒自らにより設定

③ 関係機関との連携の充実

- 「要保護児童対策地域協議会」での情報共有 [学校教育課]
 - ・不登校、児童虐待、家庭の問題及び発達障害等、個別のニーズや課題に応じた構成メンバーを選定し、児童生徒一人ひとりを丁寧に支える体制を確保。また、しなやかスクール(適応指導教室)において、不登校等の児童生徒の指導体制を確保

④ 教職員の指導力の向上

- 「柳井市いじめ問題研修会」の開催 [学校教育課]
 - ・6月に「生徒指導主任研究集会兼いじめ問題研修会」を開催
 - ・認定社会福祉士・公認心理士を講師として「いじめの認知と不登校対応における各校の成果と課題」について協議・研修を実施

< 「柳井市いじめ問題研修会」の開催回数 > [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
24	A	A			
主な理由	「柳井市いじめ問題研修会」を予定通り開催できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・増加傾向にある不登校児童生徒の課題に対して、新規不登校を出さない取組と継続不登校を減らす取組とを分けて考え、適時効果的に対応していく必要がある。

志の7 幼児教育の充実

業務の 対象	幼稚園・保育園（所）、 小学校	意図(対象 をどうし たいのか)	幼児期における子どもの育ちを十分に把握し、連携 の推進を図る。				
指標 25	「保育・幼児教育体験」 の実施回数（回/年）	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		1	1	1			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	0 千円	0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 連携体制の充実

- 幼稚園・保育園（所）への巡回訪問 [学校教育課]
 - ・地域コーディネーター、保健師、家庭児童相談員、及び指導主事で構成する「柳井市特別支援専門家チーム」を設置し、市内 13 ある幼稚園・保育園（所）に巡回訪問を実施
 - ・9 月に「就学予定児童情報連絡協議会」を開催し、巡回訪問後の情報整理や教育支援委員会への意見集約を行い、特別な教育的支援を要する子どもの早期発見・早期支援につなげた。

② 交流機会の促進

- 交流機会の確保 [学校教育課]
 - ・8 月に教員 5 人が、4 ヶ所の幼稚園・保育所（園）の「保育・幼児教育体験」に参加し、園生活の体験や園児との触れ合いから、学校生活における指導の工夫・改善につなげた。

<「保育・幼児教育体験」の実施回数> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
25	A	A			
主な理由	・各園の協力により、予定通り実施できたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・保育から教育へのつながりを見据えた「架け橋期のカリキュラム」の編成と実践への取組から、学校での指導方法の改善、充実に反映していく必要がある。

志の8 教職員の資質向上

業務の 対象		児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	保護者や市民の信頼に応え、学校課題に適切に対処 し、1人ひとりの子どもを伸ばすことができる教職員 の育成をめざす。				
指標 26	「克己堂」の開催 (全校)		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			13	13	10			
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	0 千円		0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 多様な教育課題に対する力を付けるための研修の充実

- 多様な教育課題に対応する研修会の開催 [学校教育課]
 - ・ I C T活用について、各校の情報担当を対象に「I C T学習研究会」を1回開催
 - ・「柳井市 I C T活用推進プロジェクトチーム (Y I P)」を6回開催

② キャリアステージに応じた研修の充実

- 人材育成の研修会開催 [学校教育課]
 - ・若手教員(1～3年目)を対象とした「フレッシュ合同研修会」を開催し、14人が参加
 - ・ミドルリーダーが授業公開や運営を務めた「克己堂」授業研究会を計13回開催

③ 質の高い学習指導を実現するための研修の充実

- 「克己堂」授業研究会の開催 [学校教育課]
 - ・アクティブ・ラーニングのある授業づくりを目的に、子どもたちの学びの振り返りを共通の視点として、市内小中学校で計13回開催。延べ455人参加
 - ・他校での授業研究会には必ず1人1回以上参加することとし、全教職員が参加

④ 子どもや保護者と向き合う時間を確保するための業務改善の推進

- コミュニティ・スクール運営推進書の位置付け [学校教育課]
 - ・コミュニティ・スクール経営案を運営推進書として活用した取組を実践

<「克己堂」の開催> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
26	A	A			
主な理由	・カリキュラム等の都合により、克己堂授業研究会を開催できなかった学校があったため。				

[今後の課題と改善案]

- ・研修の意義や様子を周知するなどして、全学校における開催を進めていきたい。
- ・教職員の授業研修がより深まるよう実施内容等について随時改善を進めていく必要がある。

4-(1) 情報発信の充実

業務の 対象		市内外全般	意図(対象 をどうし たいのか)	本市の教育環境と活動、これからめざす教育の姿を わかりやすく伝える。				
指標 27	市ホームページの更新 頻度（回/月）		成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			1	1.67	1.63			
28	指導主事の学校訪問に よる情報発信サポート （回/月）		1	1	1			
経費	R 3		R 4	R 5		R 6		R 7
	0 千円		0 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 市ホームページの充実

○ 市ホームページの更新 [教育総務課]

- ・ 更新(回/月)は教育総務課 0.5 回、学校教育課 0.9 回、生涯学習・スポーツ推進課 2.0 回、文化財室 0.1 回、柳井図書館 4.0 回、サンビームやない 1.7 回、給食センター 2.2 回

② 各小・中学校による情報発信の充実

○ 学校へのサポート [学校教育課]

- ・ スクール・コミュニティの概要や、全国学力・学習状況調査の結果等を随時、更新掲載。

○ 興味・関心のあるホームページの開設 [学校教育課]

- ・ 全校とも、経営方針や学校行事、学校だより、地域情報等、随時充実を図っている。

<市ホームページの更新頻度> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
27	A	A			
主な理由	・ 所管によって更新頻度のバラツキはあるが、平均して月 1 回の更新結果となったこと。				

<指導主事の学校訪問による情報発信サポート> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
28	A	A			
主な理由	・ 担当指導主事制度のもと、各学校に継続的に訪問し、情報収集と発信に努めたこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・ ページの意図が簡単に読み取れるよう、リンクのみの表示など、内容がわかりにくい表示は避ける必要がある。
- ・ タイムリーな情報提供となっているか随時確認することが必要である。

4-(2) 安全で快適な学びの環境づくり

業務の 対象	児童、生徒、 学校関係者	意図(対象 をどうし たいのか)	安全で快適な施設・設備の整備により、安心して学べる教育環境を提供する。				
指標 29	学校施設非構造部材 (屋内運動場)の耐震化率 (%)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		100	78.6	85.7			
30	通学路の合同点検 (回/年)	1	2	1			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	203,286 千円	225,803 千円					

〔主な取組の成果と有効性〕

① 学校施設の安心・安全な教育環境の確保

○ 学校施設の改修 [教育総務課]

- ・平郡東小屋内運動場改修、新庄小給食配膳室改修、柳東小バリアフリー改修、伊陸小多目的スペース床改修、柳井中図書室床改修、遊具改修等を実施

② 教育環境の質的向上

○ 教育環境の改善 [教育総務課]

- ・新庄小特別教室(理科室・家庭科室・音楽室)、日積小保健室、柳井西中相談室、柳井中応接室に空調機を設置
- ・学習机への天板拡張器具(縦横 10cm 拡大)の取付によりタブレット端末の落下防止に寄与

③ 通学の安全対策の推進

○ 通学路の合同点検 [教育総務課]

- ・国、県、市の道路管理者、警察、学校等により柳井市通学路安全推進会議を開催
- ・改善要望箇所のうち新規分について、関係者による現地合同点検を 1 回実施

○ 遠距離通学への支援 [教育総務課]

- ・小、中学校 4 校 10 台のスクールバスを運行。対象の児童生徒数は 160 人
(日積小、柳井南小、大畠小、柳井中)
- ・路線バスの廃止に伴い、スクールタクシーを運行。対象の児童数は 7 人
(伊陸小、柳北小)
- ・離島高校生の通学費用の補助(平郡東～柳井港、対象の生徒数は 1 人)

④ 安心安全メールシステム

○ 安心安全メールシステム [学校教育課]

- ・各学校の安心安全メールを活用し、防犯や災害に関する情報を随時配信

⑤ 感染症対策の推進

○ 「学校の新しい生活様式」に基づく衛生管理 [学校教育課]

- ・文科省や県教委からの通知を踏まえ、学校内におけるマスク着用、手指消毒の実施、体温の計測等、基本的な感染対策を継続して実施

<学校施設非構造部材(屋内運動場)の耐震化率> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
29	B	B			
主な理由	・未施工であった平郡東小屋内運動場の改修を実施したこと。 ・未施工箇所が2ヶ所あること。				

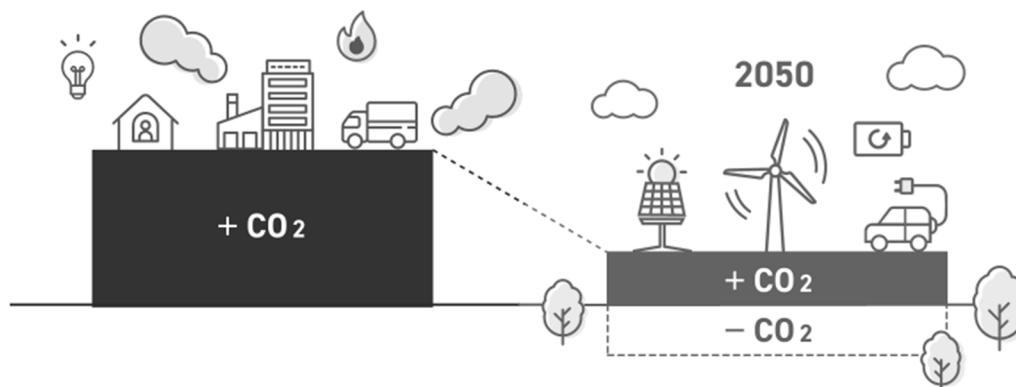
<通学路の合同点検> [教育総務課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
30	A	A			
主な理由	・現地において、関係者による合同点検を1回実施したこと。				

[今後の課題と改善案]

- ・校舎の耐震化率は、令和元年度末で100%達成済。非構造部材の耐震化未施工分は、残りが伊陸小屋内運動場と大畠中武道場となり、引き続き計画的に取り組むこととしている。
- ・トイレの洋式化は、小学校が令和2年度末で整備を完了している。令和4年度は、柳井中トイレ改修に係る実施設計業務を完了し、順次取り組むこととしている。
- ・道路の拡幅が困難な箇所等においても、通行車両への注意喚起表示等により、適宜、児童生徒への安全対策を図っていく必要がある。
- ・令和4年2月、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「柳井市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた挑戦を開始する宣言をしている。施設、運営、教育の各観点から排出量の特性を把握し、削減にあたる必要がある。

[参考]脱炭素社会に向けて



出展：環境省脱炭素ポータル https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/

4-(3) 学校の適正規模・適正配置

業務の 対象	児童、生徒、 地域住民	意図(対象 をどうし たいのか)	地域の実態に配慮しつつ、一定の教育の機会均等や 教育水準の維持向上を確保する。		
この項目の指標は定めていない。					
経 費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	3,687 千円	3,590 千円			

[主な取組の成果と有効性]

① 学校の適正規模・適正配置

- 適正規模・適正配置の検討 [教育総務課]
- ・ 児童生徒の推移や地域の状況等の把握

② 廃校跡地の活用

- 廃校跡地の有効活用の検討 [教育総務課]
- ・ 旧阿月小、旧神西小、旧遠崎小、旧平郡西中、旧日積中、旧伊陸中、旧柳井南中の7校
- ・ 旧神西小は、平成31年3月からビジコム柳井ラボ・サテライトオフィスとして貸付
- ・ 旧阿月小は、跡地に阿月出張所・公民館を整備中(令和6年度完成予定)

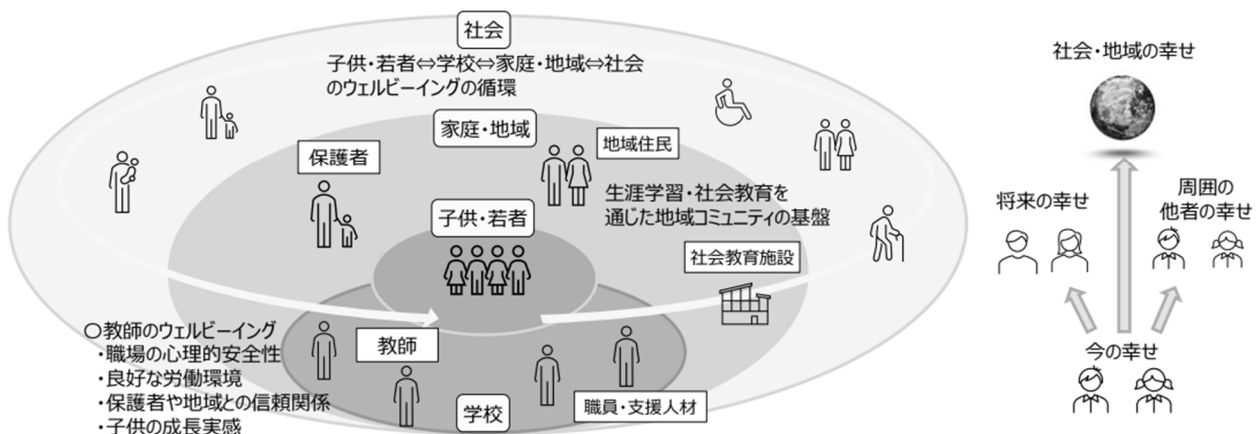
[今後の課題と改善案]

- ・ 規模にかかわらず、標準的な教育の機会と水準を確保する必要がある。
- ・ 共に学ぶ人数が少ないことを、地域がどう理解し補えるかを認識する必要がある。

[参考]ウェルビーイング

教師のウェルビーイング、学校・地域・社会のウェルビーイング

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められる。



出展：「次期教育振興基本計画について(答申)(中教審第241号)」参考資料・データ集, 文部科学省

4-(4) ICT環境の整備・充実

業務の 対象	児童、生徒、教職員	意図(対象 をどうし たいのか)	多様な子どもたちを誰一人残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育 I C T 環境を実現する。		
この項目での指標は定めていない。					
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	51,440 千円	36,522 千円			

〔主な取組の成果と有効性〕

① ICT学習環境整備の推進

○ ICT学習環境整備の推進 [教育総務課]

- ・児童生徒1人に1台のタブレット端末、計2,331台を整備。併せて、校内Wi-Fi環境による高速通信ネットワークを整備（令和3年3月）
- ・インターネット環境が整わない家庭に、貸出用のWi-Fiルーターを整備
- ・児童生徒、保護者、教職員の質問等に対応する一元的な問い合わせ窓口となるヘルプデスクを設置（電話、メール、問合せフォーム、チャットボット）
- ・遠隔授業や学校間交流学习を促進するため、大型モニター(65型)、移動式スタンド、画面ミラーリング機器(AppleTV)を21組整備

○ ICT支援員の配置 [学校教育課][教育総務課]

- ・教職員によるICT活用推進プロジェクトチーム（YIP）を設置
- ・ICT支援員2名を採用し、授業におけるICT活用への助言や操作等を支援

〔今後の課題と改善案〕

- ・令和6年4月から運用開始する県統合型校務支援システムの共同調達による校務の効率化により、教職員の負担軽減・働きやすさの向上を図ることとしている。
- ・教育データ活用によるエビデンスに基づいた学校教育の変革等、デジタル技術とデータを活用して教育DXを推進していくことが必要である。
- ・導入7年目(令和9年)には、現行のタブレット端末を更新する必要がある。

〔参考〕 未来の教室



GIGAスクール構想は、国を挙げての一大プロジェクトであり、経済産業省でも教育という観点で取組がなされている。

<https://www.learning-innovation.go.jp/>

STEAM Library STEAMライブラリーは、ワクワクを起点に「創る」と「知る」の循環的な学びを実現するためのオンライン図書館です。	学校BPR 学校における働き方改革 学校における働き方改革の実現に向け、BPRの手法を学校に応用し、現状分析や解決策の策定を行った調査結果をご紹介します。	未来の教室 通信 「未来の教室」通信では、「未来の教室」実証事業等を紹介するニュースレター、実施したイベントの概要や事例紹介をご覧いただけます。	EdTech ライブラリー EdTechライブラリーでは、「未来の教室」実証事業で活用した、学校でも活用できるEdTechサービスを紹介しています。
---	---	---	---

4-(5) 学校教材、図書の整備・充実

業務の 対象	児童、生徒	意図(対象 をどうし たいのか)	基礎的・基本的な学習理解を助け、思考力・判断力・ 表現力や情報活用能力などを養う教育効果を高める。				
指標 31	学校司書の配置 (全校)	成果指標	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
		13	7	7			
経費	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7		
	13,765 千円	17,412 千円					

[主な取組の成果と有効性]

① 学校図書館の充実

○ 学校図書館の整備 [学校教育課] [教育総務課]

- ・児童生徒の学びを広げ、深めるための図書・資料の充実を図った。
- ・図書購入費実績は、小学校費 3,398 千円、中学校費 1,896 千円、前年比同等
- ・7人の学校司書を配置し、学習センターとしての学校図書館の役割を担えた。

○ 学校図書館図書標準の向上 [教育総務課]

- ・学校図書館図書標準達成率は、13 校中 7 校が 100%以上を達成（単純平均 107.3%）

② 教材や設備等の整備

○ 学校教材・備品の計画的な整備 [教育総務課]

- ・各学校からの要望備品である電子ミシン、視力検査器、モノクロ複合機、点字タイプなどを整備したほか、65 型大型モニター等(4-(4)①と同じ)を設置。(216 数量、9,556 千円)
- ・机が狭い問題を改善するため児童生徒用天板拡張器具を取付（天板 4,614 千円）

<学校司書の配置> [学校教育課]

評価	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
31	C	C			
主な理由	・学校司書 7 人が、学校の規模等に応じて 1 校または 2 校、もしくは 3 校を担当し、実質的に全校へ配置して効果・効率の高い推進活動を行っているが、成果指標とする 1 校 1 人配置が達成していないため。				

[今後の課題と改善案]

- ・クラス数が係数となる図書標準冊数は、小規模校ほど選書の選択肢が狭くなりやすい。
- ・廃棄を減らせば達成率は上がるが、語彙力や文章力の向上、時代に応じた多様な価値観の醸成を育んでいくためにも、選書の方法について一定の共通理解が必要である。
- ・各校の好事例を共有し、児童生徒の読書活動のさらなる充実に向けた取組が必要である。

(4) 令和4年度の重点事項における個別評価

《学校教育》-----

学 01) 「学校・地域連携カリキュラム」を活用し、「社会に開かれた教育課程」の実現を図り、子どもたちの資質・能力を高めます。

→【夢の5関連】 総合的な学習の時間や各教科等との関連を図りながら、地域の人々が参加する授業について、教職員と地域の方が一緒に考える時間を設ける学校が増えてきている。地域の人の授業への参画が、子どもたちの資質・能力を高めることにつながることを周知していきたい。

学 02) 学校運営協議会の熟議の充実を図り、地域協育ネット、学校応援団の機能を活用し、学校・家庭・地域の協働による教育活動を強化します。

→【夢の1, 夢の2, 夢の3関連】 子どもを交えた熟議を行う学校が増えており、地域の人々の参画意識が高まった。また、学力向上や、地域貢献について一緒になって考えることで、よりつながりを意識した教育活動の実践へとつながった。

学 03) いじめ、不登校への積極的な取組として、自己肯定感や他者肯定感を高め、人間関係調整力を育成するために、活力ある集団づくりに努めます。

→【志の6関連】 スクールカウンセラーによる「思春期グロウイングハートプロジェクト」において、児童生徒への「心理教育プログラム」を実施している。

担任との教育相談を定期的実施し、開発的生徒指導の体制を継続していきたい。(※開発的生徒指導とは、問題行動への予防、子どもの個性・自尊感情・社会的スキルの伸長等に力を置いた生徒指導)

学 04) 1人1台タブレット端末等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することで、すべての子どもたちの可能性を引き出す主体的、対話的で深い学びの研究を推進します。

→【志の3, 4-(4)関連】 タブレット端末の各アプリを使用し、音声や画像、動画を用いて、紙だけでは伝えきれない情報を視覚的、聴覚的に受け取る環境整備を構築している。児童生徒一人ひとりの課題や習熟度、また、部活動等での使用に適したアプリの活用を行っていきたい。

学 05) 言語活動・情報教育の充実や英語教育の推進を通して、コミュニケーション力や表現力、情報活用能力の育成を図ります。

→【志の1関連】 アクティブ・ラーニングによる深い学びを進める中で、「仲間と思考錯誤しながら、より多くの考えや情報をつなぐ活動」や「仲間と協働して、自分たちなりの答えを練り上げる活動」、「話し合ったことを表出する活動」の場を授業において設け、表現する力の育成を図った。

学 06) 複式学級等の指導方法について、学級集団づくりや学習リーダー等の研究を深め、小規模校での学びの充実を図ります。

→【志の 8 関連】 複式学級のある学校では、リーダー学習の手引き等が示され、子どもたちが主体的に学習に取り組む様子が見られる。また、少人数の学校では、少人数の強みを生かし、学力保障の個別支援にも力を入れている。

学 07) 子どもたち一人ひとりの学力を保障するために、データに基づいた学力向上を推進します。

→【志の 1 関連】 全国学力・学習状況調査をはじめ、各種学力調査の結果から、子どもたちの課題を分析し、授業改善に活かしている。また、すべての子どもたちが、該当学年で身に付けるべき学力が身に付いたかを見取り、朝学等で補充学習を行っている。

学 08) 「学びのサイクル」の取組を充実するため家庭学習の在り方について工夫改善を行います。

→【夢の 1, 夢の 2, 夢の 3 関連】 全教職員が「学びのサイクル」を意識し、各校で家庭学習の手引き等を作成し、家庭学習の充実を図っている。全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の結果をホームページで公表する等、家庭への情報発信に努めていきたい。

学 09) 教職員一人ひとりの個性を生かした組織づくりや働きやすい環境づくりを進め、地域や関係機関との連携を深めた中で、「チーム学校」としての機能強化を進めます。

→【志の 8 関連】 地域にある学校として、様々な方々の協力のもとで進める学校運営体制を構築している。学校内の分掌については、適材適所に努め、円滑な校務運営と働きやすい環境づくりにつなげている。

《社会教育》-----

社 01) 学校教育と両輪で進めるスクール・コミュニティに取り組む体制を構築します。

→【夢の 2, 夢の 3 関連】 地域学校協働活動推進員（市 SC センター）、学校教育課職員、社会教育主事が、各学校運営協議会や地域協育ネットの会合において、オブザーバーとして参加し、情報の共有など連携を図っている。また、こやらいの発行を通して、情報発信に努めている。

社 02) 地域に伝わる知恵や技術の伝承活動を促進します。

→【愛の 6, 愛の 7 関連】 感染症対策により行事の中止・縮小はあったものの、一方で、再開の兆しも見え始めている。地域に伝わる知恵や技術の伝承活動の保存及び継承について、多様な世代が参画できるよう促進を図りたい。山口市内で開催された「日本の祭り in やまぐち」において「神明踊り」を演舞した阿月神明祭頭彰会に補助金を交付した。

社 03) 自然体験活動を促進し、しなやかでたくましい子どもを育てます。

→【愛の2,愛の5関連】 星の見える丘工房設置の天体望遠鏡を活用し、星雲や惑星の観察、四季の星座を自分の目で確かめる天体観測会を1回開催した(天候不順により2回中止)。日常生活とは異なる神秘的な感動を通じて、季節や自然や天文科学といった幅広い興味への体験を学ぶ取組となったと考えている。そのほか、野外活動や動植物の観察など、安全対策も含めての機会の提供に努めていきたい。

社 04) 公民館活動における学習講座を工夫し、交流や生きがいづくりを図ります。

→【愛の2関連】 中央及び各地区公民館それぞれのニーズに合った各種教室等を企画し、地域住民の教養の向上や交流、子どもの体験活動等の実施に努めた。中央公民館では、定期講座11講座と単発講座7回、地区公民館では、定期講座5講座と単発講座53回、山口県立大学サテライトカレッジを3回開催した。

社 05) 家庭教育支援チームを強化し、家庭教育に不安を抱える保護者等への相談活動を充実します。

→【夢の5関連】 柳井市家庭児童相談室と連携し、家庭において子育て上の問題が大きくなる前に、各種相談機関とつながることができるよう、相談窓口の連絡先を明記したカードやチラシの配布・設置を継続して行った。これにより、対面相談、電話やインターネットによる相談件数は18件であった。また、小学校7校の就学時健康診断実施の際に、家庭教育に関する情報提供を行った。

社 06) 学校図書館司書やボランティア団体との連携を図ります。

→【愛の2関連】 学校司書との連携会議を3回開催し、その中で図書資料の修繕方法や壁面飾りの作成についての意見交換により、それぞれのスキルアップを図った。また、図書館まつりでは、読み聞かせボランティアによるおはなし会の実施など、ボランティア団体と連携した取組を行った。

社 07) 地域資料のデジタル化を進め、デジタルアーカイブサイトの充実を図ります。

→【愛の2関連】 柳井市郷土資料アーカイブに収める「国木田独歩関連資料」及び「浦家資料」に追加して、令和4年度に21点の「月性関連資料」を掲載、公開した。

《スポーツ・文化》-----

ス 01) スポーツ少年団の啓発活動を工夫し、活性化を図ります。

→【愛の5関連】 スポーツ少年団団員募集冊子を市内の全児童と体育施設へ配布し、各団のPRを行った。また、体力テストは感染症対策により中止したが、恒例の親子交歓会を3年ぶりに開催し、他種目他団体の団員同士の親睦を図った。

ス 02) バタフライアリーナ(市体育館)をはじめスポーツ施設の利便性向上に向けた整備を図ります。

→【愛の5関連】 アデリーホシパーク(柳井ウエルネスパーク)については、時計の更新、昇降機・浴室天窓壁の修繕、大型サーモスタット取替修繕を実施した。市体育館については、雨漏り修繕を実施した。

ス 03) 音響設備の優れたサンビームやないの特性を活かし、利用促進に努めます。

→【愛の4関連】 自主事業として、「サザンセット音楽祭 洋楽の部」、「スタインウェイを弾く会」、「サザンセット音楽祭 伝統芸能・邦楽の部」のほか、新たに「次世代アーティストによるサマーコンサート」及び「ぶるぼん感謝のお笑いライブ」を開催し、多くの来館を得たことは、コロナ禍により停滞していた芸術文化活動の回復につながるものとなった。

ス 04) しらかべ学遊館や月性展示館等の展示施設を活用し、郷土の文化財や人物の情報を発信します。

→【愛の6,愛の7関連】 しらかべ学遊館において、「原庄一氏の生涯と保存資料」を開催した。また、埋蔵文化財発掘調査に係る成果(有実遺跡、松成西遺跡)の展示を行った。

ス 05) 地域の歴史や伝統の研究を深め、郷土愛を深めます。

→【愛の6,愛の7関連】 令和4年度に発掘調査を行った松成東遺跡、片山平遺跡の発掘調査報告書を刊行し、市内の学校、公民館、図書館等に配付し、成果の周知を図った。また、神明音頭の録音による記録を作成した。

《環境整備》-----

環 01) 新型コロナウイルス感染防止策として示された「新しい生活様式」を実践し、校内における感染対策を進めます。

→【4-(2)関連】 文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」及び「新型コロナウイルス感染症に対応した持続的な学校運営のためのガイドライン」に準じ、感染防止対策に取り組んできた。令和4年度は、取り付けが可能な学校において、筆記用具やタブレットの落下を防ぐ学習机への天板拡張器具を整備した。スペース的に設置が困難な学校においては、大型モニターを整備した。

環 02) 学校施設の安心・安全対策として、柳井市学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化対策等の施設改修を進めます。

→【4-(2)関連】 全学校校舎の耐震化は、令和元年度に完了している。その後は、屋内運動場の非構造部材の耐震化に取り組んでおり、令和4年度は、平郡東小学校屋内運動場の改修工事を実施した。空調設備の整備やトイレの洋式化に一定の目途がたった時点において、教室のLED化や校舎サッシの断熱化といった、時代に応じた学習環境の改善に努めることとしている。

環 03) 安全で快適な学びの環境づくりのため、特別教室の空調設備の整備やトイレの洋式化を計画的に進めます。

→【4-(2)関連】 普通教室棟における空調設備は、令和元年度に全校整備が完了している。その後は、特別教室への設置に取り組んでおり、令和4年度は、新庄小学校の理科室、家庭科室、音楽室に設置した。また、普通教室棟におけるトイレの洋式化は、令和2年度に全小学校の整備が完了し、令和4年度は、柳井中学校普通教室棟の実施設計を実施した。

環 04) GIGAスクール構想により整備した通信ネットワーク及び1人1台タブレット端末の適切な維持管理に努めるとともに、ICTを活用した学習環境の整備を進めます。

→【4-(4)関連】 令和3年3月、全児童生徒及び教員にタブレット端末(iPad)の貸与と、ネット環境を整備している。令和4年度は、遠隔授業や学校間交流学习を促進するため、大型モニターテレビ(65型)、移動式スタンド、画面ミラーリング機器(AppleTV)を21組整備した。活用事例として、沖縄県糸満市立高嶺小と柳井小とのZoomオンラインにより、互いの郷土料理を題材とした交流を行い、食に関する知識を深める学習を実施した。

環 05) 教員のICT活用指導力の向上やICT機器の操作支援を行うため、ICT支援員を配置し、教員へのサポート体制を強化します。

→【4-(4)関連】 ICT支援員2名を採用し、教員のICT活用への助言や操作等を支援する体制を整えた。また、児童生徒、保護者、教職員へのタブレット端末やPCの操作方法、質問等に対応する一元的な問い合わせ窓口としてヘルプデスクを設置した。

環 06) 路線バスの廃止に伴い、通学手段を確保するため、スクールバスの導入を図ります。

→【4-(2)関連】 令和4年10月から伊陸線の路線バスが廃止されたことに伴い、該当する伊陸小及び柳北小に通学する児童の交通手段を確保するため、各1ルートのスクールタクシーを導入した。

5 学識経験者の知見

(1) 点検及び評価全般

- ・全体的には、コロナの感染対策を行う中でも、適宜対応に努められていると思う。回数は従前より少なくとも、そういう状況で実施したことについては、もっと明記されたいと思う。
- ・全体の評価結果としては、Aが増え、Dが減っており、改善がみられる。
- ・コロナで、やりたいことができなかったのが再加速で進めていこうとしているが、5類になったといいつつも感染数は増えている。経済を回していこうとする中に学校も入り、結果として、休校になってしまっただけでは本末転倒なので、そこは充分留意されたい。

(2) 取組ごとの知見

【1 自分を愛し、人を愛し郷土を愛する教育の推進】 愛の1～愛の7

- ・先日、テレビで同和問題の放送を見て思ったが、最近はどのような状況か。
→[事務局] YouTube 等で同和地区の映像を載せるなど問題となっていることは承知している。人権課題のひとつとして認識し、研修にも取り入れている。
- ・[今後の課題と改善案]には、「教育的機能の変化により、多様な学習機会の提供が求められている」という、昨年と同じ内容が記されている。では、何も改善されていないのかというと、そうではなくて、新たに、高田家資料の展示をされ、防災講習もされているので、もっと詳しく記されたら良い。
- ・歴史伝統の保護に関しては、教材開発をしたり、ゲストティーチャーを招聘したりと、いろいろな場の設定を行っていることは評価したい。ただ、それが子どもにとって豊かな学習として、実りある結果に結びついていることが重要で、しっかりと、その進捗を見定めておく必要がある。例えば、ゲストティーチャーによる授業は、主に地域の人に依頼しているが、丸投げではないかと感じることもあった。それぞれの子どもの性格なり、状況を知っているのは教員であり、カリキュラムの内容として、「ゲストティーチャー」と「教員」のそれぞれの出番があるはずである。そのことは、校長、教頭含め、教員として押さえておくべき。
- ・いまのうちに地域の歴史について、古老の話を、映像や音声で残しておくべき。
→[事務局] 神明音頭の音声を保存した。
- ・行政として、地域自身でできることへのサポートや、サークル活動への働きかけなど、地域任せではない部分を住民に伝えられると、より一緒にやっというモチベーションにつながると思う。

- ・毎年開催のコンクールはマンネリ化しやすいので、参加数を増やしていくことは大変と思う。
- ・サンビームは県下でも音響設備が良いと聞いている。施設の使い方として、運営委員会のような協議の場をとっているのか。
→[事務局] 活動形態や参加団体の数などによって異なるが、サザンセット音楽祭など実行委員会形式をとっているものもある。

【2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進】 夢の1～夢の6

- ・全校に整備されたコミュニティルームは、有効に活用されているか。
→[事務局] 状況に応じて、活用方法は異なるが、写真を展示するなど、地域の人が入りやすいように努めている学校もある。双方にとって有益な場となるよう投げ掛けを行っていきたい。
- ・「スクール・コミュニティだより」の発行回数が増えたので評価はAとしながら、課題には「充実を図る必要がある」と記してある。発行開始から数年が経過し、「各応援団はこういうことをしている」との活動紹介の掲載を主とする段階は過ぎたのではないか。丁寧に作られていると思うが、コミュニティセンターの意義として、こういうポイントでこういうことをしたら面白い活動内容になるとか、他市ではこういう取組もあるとか、センターにはこういう資料があるとか、相談ができるとか、より幅をもたせた掲載内容にシフトしても良いのではないか。
- ・これまでのスクール・コミュニティの取組の成果として何があり、これは続けていくべき、止めるべき、もっと打ち合わせをすべきなどの振り返りをして、次のステップに進めていく必要がある。そこで、はじめて良い再加速ができるのではないか。
一方で、地域の人々が、そこにいることが当たり前の景色になってきていることは成果として評価したい。
- ・学校のカリキュラムとしてスクール・コミュニティがあるが、毎年、内容に違いがみられない。教員がやりたいと思うことか、必要があることなのか、そこは今一度考える必要がある。
- ・地域は変わらないが、校長や教員の異動により、学校と地域との関係が簡単に変わってしまうこともある。そうならないためにも、誰でも真似ができるようにプログラム化しておくことが大事。持続可能な地域カリキュラムとなるよう教育委員会としても指導に努められたい。
- ・部活動改革が進められているが、その成果を紹介されたい。
→[事務局] 本年4月から部活動改革総括コーディネーター1名を選任し対応している。適宜紹介していきたい。

- ・すでに達成している成果指標は、別の指標としてはどうか。
→[事務局] 柳井市教育大綱(R3～7 年度)の 5 年間で取り組む成果指標として設定していることから、この期間は推移を図りたい。別の表記を検討したい。
- ・高校としても、生徒による学習支援のボランティア活動は推進したいと聞いている。双方にとって意義あることなので、つなぐ役割があれば担いたい。
- ・中高生による学習支援ボランティア活動時の保険はどうなっているか。
→[事務局] ボランティア保険を掛けている。
- ・この夏は、柳井高校、柳井商工、柳井学園から 40 人近くの高校生が手伝ってくれていた。
→[事務局] 夏休み学習会はずっと続いてきており、小学生だった子が中高生になって、今度は、自分たちがとの思いから活動に参加する子も多いと聞いている。素直な中高生の気持ちに感謝したい。

【3 志を実現させるための力の育成】 志の1～志の8

- ・学習は、個で始まって個に帰る、その間に、その個の考え方をまず持った上で、集い、高め合っていくことが、本来のアクティブ・ラーニングの手法と思う。はじめから、わっと集まり、すぐ話し合ってしまうと、自分の考えを持てないまま流されて、何かまとまっているように見えてしまうこともある。
→[事務局] アクティブ・ラーニングは、講義型授業が多いことの改善策として、子どもたちに動きを付ける、子どもたちに考えさせる時間を持たせようと始めている。個人が一つのことをじっくりと考え、自分としての考えを持ち、それから友達と一緒にどうなのかというプロセスを踏むことはとても大切と考えている。
課題にもよるが、アクティブ・ラーニングという言葉のイメージから、教員も子どもに動きのあることを求めがちとなり、指摘されるように、本人がしっかり意見を持った上で、友達はどうかのだろうとの時間を作れるよう助言等を図りたい。
- ・課題のひとつに不登校がある。しなやかスクール（適応指導教室）などの従来なかった活動への取組は、保護者から良い評価を耳にした。
- ・会議の目的によっては、会議を開く回数が多いことが成果ではなく、多いことで連携が強化され、情報共有が図られ、学校を含む各機関が機能的に分担してどう動いたかにより成果につながる。見方によって、誤解を生む標記とならないよう留意されたい。
- ・ニュースで教員の不登校という言葉聞いた。あまり教員に無理をさせると、それが結果として子どもたちに回ることにもなりかねないので、教員への配慮にも努められたい。

【4 基本方針を支える環境整備】 (1)～(5)

- ・ 廃校跡地の活用を行う場合は、地域にとって思い入れの強い場所なので十分配慮されたい。
- ・ 指標に「学校司書の配置(全校)」とある。一律に1校1人の常駐配置ではなく、学校の規模や状況に応じ、小さな学校では複数校を兼務するなど、実態として効果的な運用にはあるので、C評価でなくとも良いのではないかと。
- [事務局] 成果指標の設定の仕方からC評価となるが、該当部分に説明を補完したい。

6 今後の取組に向けて

本年6月には、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」や、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトとした国の第4期「教育振興基本計画」が閣議決定されました。

また、山口県では、加速度を増す人口減少に対応し、これまでの取組の継承と発展をめざす令和5年度からの5年間の指針として、「山口県教育振興基本計画」が策定されています。

いずれも、将来予測が極めて困難な時代であっても、しっかりと未来に向けての教育投資を行うことを目指すものです。

今回の評価年度である令和4年度は、コロナ禍の脱却に向けて、児童生徒を含めた市民全体の諸活動が再び動き始めた年度でありました。

今後、一段とスピードアップする社会の変革に呼応するためには、いろいろな課題の解決が必要となってまいります。

このたびの点検・評価において、学識経験者から得た貴重な知見を踏まえ、あらためて確認、改善を図り、今後の取組に反映してまいりたいと考えます。



作成：山口県柳井市教育委員会